

新しい安倍フェローが 決定しました

2005-2006 安倍フェロー採用者

[氏名(和文表記+欧文表記)/所属/研究テーマ]

- **クリスタ・アルテンステッター** Christa Altenstetter
ニューヨーク市立大学政治学教授/医療機器規制政策
グローバル化の結果:政策策定レベルの国内外の橋渡し
- **有村俊秀** Toshihide Arimura
上智大学経済学部助教授/環境政策は技術革新を促進
できるか? 日米の比較研究を通じて
- **ジェフリー・ブロードベント** Jeffrey Broadbent
ミネソタ大学社会学部準教授/相互依存と普及リスク
交渉:日米独壌の気候変動政策ネットワーク
- **アリソン・ブリスク** Alison Brysk
カリフォルニア大学アーバイン校政治学教授/世界
のよきサマリヤ人:人間の安全保障のプロモーターと
ネットワーク
- **ジョン・デイビス Jr.** John Davis, Jr
ミシガン州立大学人類学部助教授/人権の育成:日米
アプローチの比較
- **リーバ・フェア** Lieba Faier
カリフォルニア大学ロサンゼルス校女性学センター研
究員/日米におけるNGOと政府の協力:人身売買と
戦うための文化的制度的相違を乗り越える取り組み
- **エイドリアン・ファベル** Adrian Favell
カリフォルニア大学ロサンゼルス校社会学部準教授/
メイド・イン・トランスレーション:ロサンゼルスー
東京移動ネットワークと、アート、ファッション、フ
ードにおける「オフショア」日本文化産業の出現
- **ヒロシ・フクライ** Hiroshi Fukurai
カリフォルニア大学サンタクルズ校社会学部教授/日
米の非専門家参加システムの比較分析:日本の裁判員
制度とアメリカの刑事陪審制
- **トーマス・ギル** Thomas Gill
明治学院大学国際学部準教授/日米英におけるホーム
レスへの対応:文化人類学的アプローチ
- **後藤美香** Mika Goto
電力中央研究所社会経済研究所リサーチ・エコノミスト/
日米におけるエネルギー産業のダイナミズムと将来
像
- **平尾桂子** Keiko Hirao
上智大学文学部人間学教室助教授/家族の教育戦略と
母親の就労:日米比較
- **ハロルド・カーボ** Harold Kerbo
カリフォルニア州立工芸大学社会科学部教授/タイ・
ベトナムにおける貧困削減政策プログラム:その効果
と他の発展途上国へのインプリケーション
- **ジョシュア・モルダビン** Joshua Muldavin
サラ・ローレンス大学地理学部教授/環境保全、成長
持続と貧困軽減:中国開発における日本による環境O
DAの役割
- **大庭三枝** Mie Oba
東京理科大学工学部助教授/アジア太平洋「地域取り
決め複合体」形成におけるアメリカ要因の分析:日米
関係へのインプリケーション
- **ロバート・ペッカネン** Robert Pekkanen
ワシントン大学ジャクソン国際研究大学院助教授/日
本・イタリヤ・ニュージーランドの選挙制度改革の効果
- **タカシ・ヨシダ** Takashi Yoshida
西ミシガン大学史学部助教授/戦争の記憶と植民地主
義の追憶:戦後日本平和運動と博物館の比較分析

運営する共催事業です。日米センターが設立された1991年から実施しており、これまでに14期、合計218名の安倍フェローが誕生しています。このたび、85名の応募のなかから、左記の16名が第15期の安倍フェローとして採用されました。各フェローはこの4月からそれぞれの研究計画に従い、研究プロジェクトを実施しています。

また、十数名のフェローが参加して、合宿形式で互いに研究内容を検討しあい、情報と意見の交換を行なう「リトリート」も実施しています。

安倍フェローシップとは、将来の日米間、さらには世界の知的交流を担う人材の育成、社会科学及び人文科学分野における研究者の国際的なネットワークづくりを目的とした研究奨学プログラムです。①グローバルな課題、②先進工業社会や工業化が進みつつある社会に共通する課題、③日米関係についての課題、をテーマとする個人の調査研究プロジェクトに対して研究奨学金を支給しています。米国学術団体評議会(ACLS)の協力を得て、米国学術研究評議会(SSRC)とシヤパンファウンデーション日米センター(CGP)が

また、安倍フェローシップ・プログラムでは、研究奨学金の支給だけでなく、研究の促進とネットワーク形成のために「セミナーシリーズ」を実施しています。その一つは、米国の出版社から学術書を刊行することを目的に、安倍フェローを中心に十数名の専門家が参加して、論文を持ち寄って討議する「ワークショップ」です。04、05年は、「ソフトパワー」「トランスナショナルリズム」をテーマに実施されました。前記事で紹介した公開シンポジウムも、「ソフトパワー」をテーマにしたワークショップの成果普及を目的に実施されたものです。06、07年のテーマは「少子化」で、5月16〜17日にシカゴ大学にて、山口一男シカゴ大学社会学部教授(2000年度安倍フェロー)を中心にワークショップが開催されました。



2006年1月13〜16日、フロリダ州アメリカ・アイランドで実施された今年のフェローズ・リトリート。教育、安全保障、福祉、海洋など、多様なバックグラウンドを持つ研究者が集まり、学際的、客観的な指摘を互いに受け、研究内容を再確認する「試練の場」となった